

サトイモ疫病ってこんな病気！

農林水産研究所

- ◎病原菌（かび）*Phytophthora colocasiae*（フィトフトラ コロカシエ）
- ◎さといも属の植物にしか感染しません。
- ◎本病は、6月末～7月の平均気温25℃以上で多雨（梅雨）に遭遇することによって発生し始めます。また、8月下旬～9月の多雨（秋雨）や台風通過に遭遇することによって発生は急激に拡大します。
- ◎成育初期から多発すると株全体が枯れ込み大幅な減収や収穫皆無となります。
- ◎葉や葉柄が発病した株の芋を食べても、ヒトの健康には影響ありません。

①下位葉は発病しやすい！

7月、8月、9月にリーフディスク法(※)で発病検定した結果、上位葉に比べて、**下位葉は発病度が高い(=発病しやすい)**。

※リーフディスク法：サトイモの葉片で疫病の発病を可視化する手法

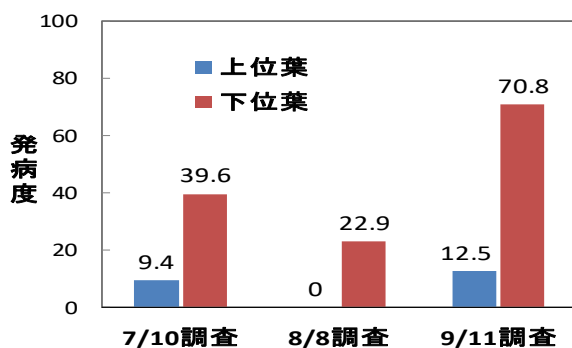


図1 葉位別の発病のしやすさ

②葉が傷つくと発病しやすい！

「針で傷つけた有傷の葉」と「無傷の葉」に疫病菌を接種した結果、**有傷の葉では、明らかに発病しやすい**。



傷をつけた有傷の葉



無傷の葉

③8月一杯は発病を抑え収量維持！

7月、8月、9月にサトイモ葉と葉柄を除去し時期別に発病する疫病被害を再現した結果、**7～8月の被害では、3～4割減収するが、9月の被害では、減収への影響は小さい**。

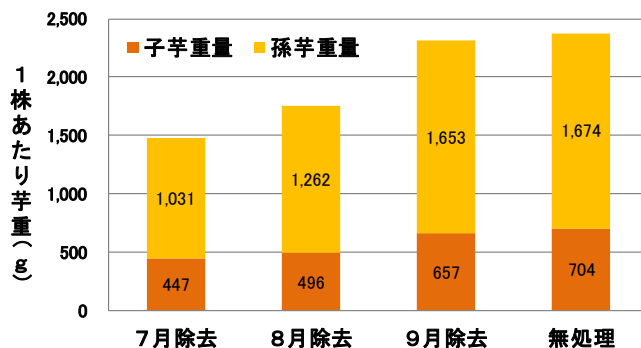


図2 茎葉の除去時期が芋収量に及ぼす影響

愛媛県は、平成29年から令和元年の3年間、宮崎県、鹿児島県、西日本農業センター、岐阜大学と共同研究を行い、疫病の発生生態の解明と防除対策を確立し「サトイモ疫病対策マニュアル（2020年版）」を取りまとめました。

◎マニュアルは愛媛県ホームページからご覧になれます。

サトイモ疫病 [検索](#)

